

名古屋丸の内ロータリークラブ Weekly Report

藤田守彦 会長 年度テーマ
=先人に感謝、今日から、そして明日へ=
ホップ、ステップ、ジャンプ!!

例会場 名古屋クレストンホテル

TEL 052-264-8000

例会日時 木曜日 12:30

プログラム・クラブ会報広報委員長 岩田 宏



創立 1995年3月9日
承認 1995年3月28日
会長 藤田 守彦
幹事 田島 陽介

事務局 名古屋市中区栄3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007号

TEL 052-263-1324

FAX 052-263-0730

Mail rc.nagoya-marunouchi@waltz.ocn.ne.jp

HPhttp://www.nagoya-marunouchi-rc.org/

第850回 例会No. 34 平成 25年 3月28日(木) 晴

- ローターソング 「手に手つないで」
- 出席報告 会員46名中21名出席
- 出席率 52.00% 出席計算人数42名
- 修正出席率 3月14日 95.34%
- スピーカー 岡田守功さん

会長挨拶

皆さん、こんにちは。二週例会を休ませて頂きました。吉田会長、西川エレクトには会長挨拶を代行して頂き、ありがとうございました。

実は14日の週に得意先協力会の行事で、その得意先のタイ工場を視察して来ました。少しタイの現状を話し致します。得意先は20年以上前より進出され今では年間ルームエアコンを年間66万台、業務エアコンを24万台生産されています。今回久しぶりに工場視察をして感じましたが、予想以上に海外移転が進んでいる事と生産方式の多様化でした。

この会社を例にあげますと、日本生産の時は外製約70%内製30%、タイ生産になりますと、逆で外製25%内製75パーセントとなっています。何故かといいますと、タイの道路事情、配送業者、の事があると思います。日本は「ジャストインタイム」が示す様に、要る時間に、要る量を納入する仕組みが出来ております。しかしタイでは無理でありまして、おのずと内製化率が上がっている訳です。言葉を返しますと、得意先が海外進出をされ、それにともない自社も海外進出しても、注文が頂けるか、どうかは未知数という事です。しかし日系メーカーが進出する事は得意先にとってはプラス面が多く、歓迎される事は間違いありません。

いずれにしても、グローバル化が急速に進む中で、いかに日本製品の精密化が大きな課題であり早急に手を打つ課題と私は思っております。

折角ですから、タイの標準賃金を御教え致します。

ワーカー[一般作業員]月9,000バーツ[25200円]、事務職月12,000~15,000バーツ[33,600~42,000円]、技術職月40,000バーツ[152,000円]です。高いか安いかは皆様の御判断に御任せしますが、年々確実に給与が上がっているのは否定出来ませんし、すでに人材不足になってきています。



最近ではミャンマーも民主化され注目が集まっていますが、カンボジア同様に「ガス」「電機」「道路」のインフラ整備が遅れています。しかし人口は多く、今後はタイへの労働力移動が多くなる事と思います。日本の産業が空洞化するなか、へたをすると日本人の海外への「出稼ぎ」が出てくるかもしれません。そうならない様に国をあげて雇用を守る施策を充実することが今の政府の大きな仕事だと思います。

ニコBOX

●本日はロータリー研修として、ロータリーの知識を深めるお話を伺います。ロータリー研修委員長の岡田守功さん、宜しくお願い致します。

川原、矢野、柴田、藤野、若原、松尾、水野、吉田、長谷川、山崎、大附、西川、河原、渡邊 (敬称略)

藤田会長 例会を2回休み申し訳ありません。

岡田R研修委員長 本日はテーブルスピーチの番に当たりました。よろしく。

松本さん 東山のさくら、美しく。

山崎さん 3月はお休みが多くすみませんでした。

田島幹事 山崎川の夜桜のライトアップが始まりました。とてもきれいです。是非、夜にお出かけください。

◎春の健康感謝ニコニコDay 藤田会長以下6名

本日合計 51,000円

☆☆例会のご案内☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◎4月 4日(木) 第851回例会 クラブフォーラム

◎4月11日(木) 第852回例会

「社会奉仕:古本回収夜間例会」18:30~

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ロータリー研修卓話

ロータリー研修委員長 岡田守功



パワーポイントを使って大変わかりやすくロータリーについてお話を頂きました。資料をご希望の方は事務局までお申し付け下さい。

RI 会長メッセージ 4月 (ロータリージャパンウェブより転載)

RI 会長 田中作治

「イチバン」

朋友ロータリアンの皆さん、ロータリーは、国際的な組織ですから、海外を訪れる時には、通常、英語で話します。とはいえ、私が英語の試験を最後に受けたのは大昔のことで、エバンストンでは、通常、日本人の通訳が付いています。会議では、一言一言を理解することがとても重要です。また、私が言うことを職員にしっかりと理解してもらうことも大切です。

自分の日本語を英語で聞く新しい経験

自分が話した日本語が、英語でどう表現されるのかを聞くのは、私にとってまったく新しい経験で、今でも興味深く感じています。英語で自分を表現する新しい方法を知り、また、日本語をまったく話さない人の感覚を少しつかめたような気がします。

しかし、一番興味深かったのは、会長エレクトになったばかりのころ、ロータリーの職員との会議をもった時のことでした。確実にコミュニケーションを取るため、日本人の通訳が一緒でした。私が日本語で話し、それを通訳に英語にしてもらいました。とても和やかで、実りの多い会議でした。会議の後で、一人の職員が私のところに来て、次のように聞きました。「田中さんが日本語で、何度も「イチバン」という言葉を口にされましたが、「イチバン」とは一体、どのような意味なのですか」

何をもたらすことができたか

そこで私は、日本語でイチバンとは、哲学的な言葉でも、複雑な概念でもなく、単に一番、つまり「最善」であることだと、彼女に説明いたしました。

しかし、私は少し考えました。私はたくさんの言葉を使い、彼女もたくさんの言葉を耳にしたはずですが、その中で彼女が最も耳にした言葉が、「イチバン」だったので。私は、自分が「イチバン」という言葉をそんなに多く使っているという自覚はありませんでした。しかし、ロータリアンとして、また国際ロータリーの会長としての役目を果たす上で、この一語、つまり「イチバン」であることは、

自分にとってとても重要なのです。

私にとって、ロータリーの奉仕とは、まさに最善を尽くすこと、できる限りの「イチバン」になることを意味しています。自分のためではなく、人のために最善を尽くすこと、社会をよりよくするために、できる限り高い目標を持ち、それを達成することです。

和英辞書で「イチバン」の意味は「best」としか書かれていませんが、ロータリーでの「best」はほかの意味もあります。それは、あらゆる物事を、「超私の奉仕」の観点で見ること、私たちが「いくらお金をかけたか」ではなく、「何をもたらすことができたか」に目を向けることを意味しています。このように考えれば、もつとがんばろう、という気持ちが湧いてきます。ロータリーの奉仕が「イチバン」となること、すなわち「奉仕を通じて平和を」築くために、できる限りの力を尽くすことが私たちの仕事なのです。

ロータリーの基本知識 日本編(リーフレット) (ロータリージャパンウェブより転載)

「東日本大震災被災者への支援」

2011年3月11日に発生した大地震と津波によって、多くの人々が亡くなったり、行方不明になりました。また、この震災とそれに続く原子力発電所の事故により、多くの人々が避難生活を余儀なくされています。

地震発生直後から、世界中のロータリアンたちが見舞いの言葉とともにたくさんの義援金、救援物資を送ってくれています。また、日本のロータリアンたちも、さまざまな方法で支援をしています。

多くのクラブでは、会員から義援金を集め、ロータリー財団、ガバナー会、地元の自治体、日本赤十字社などに届けました。周年記念事業のために積み立てていた資金や観桜例会などのための資金を、震災救援に回したクラブもありました。毛布、衣料品、発電機、食料品、ミルク、オムツ、自転車、自動車……、刻々と変わるニーズを考慮しながら、支援物資を集め、会員が直接、被災地に物資を届けたクラブもたくさんあります。

自分たちの地域に避難をしてくている被災者を励まそうと、食事会などを開いたり、支援物資を届けたりしているクラブがあります。

クラブとしてばかりでなく、自社の得意分野を生かして支援を続けている会員の企業もたくさんあります。専門分野を生かして、医療活動や法律相談など、被災地で活動をしているロータリアンもいます。

時の経過とともに、被災地の支援も少しずつその内容が変わってきています。仮設住宅での生活を少しでも良くするために、網戸を取り付けたり、電気カーペットを贈ったりしました。学校に運動用具や楽器、本を贈りました。一日も早く仕事に復帰できるよう漁網や漁船、軽トラックなどを贈る支援もしています。姉妹クラブや、以前に訪れたことのあるロータリークラブ、ロータリーの会合で知り合いになった会員のいるクラブなど、ロータリーのネットワークを生かして、被災地から遠く離れたロータリアンたちも、その時、その時のニーズに合わせた活動を行っています。

今、日本のロータリアンたちは、これからも何年もかけて、被災地の支援をしていこうと考えています。